



新入生の皆さんへ

学長 後藤 直正

今冬は山科の地にも何度か雪が降り、そして積もった日もありました。その冬が終わり、春の陽光とともに、今年も新入生の皆さんを迎えることができましたことは大きな喜びであります。この日まで努力を積み重ねられたことに敬意を表しますとともに、それを支えられた保護者の方々から受けた支援を決して忘れることがないようにして頂きたいと存じます。日本画家の福田平八郎さん（1892-1974年）の絵に「筍」があります。整地されたタケノコ畑の地から、今まさに竹に育とうとするデフォルメされたタケノコが描かれています。保護者の方々からの熱い支援と整った環境から、いままさに芽を出されました。大きな、真っすぐな竹に育って頂きたいと思います。

本学は、Science(科学)、Art(技術)、Humanity(人間性)がバランスよく身についたPharmacist-Scientistを育成することを目的に教育・研究を展開しております。入学した喜びに溺れることなく、6年間、真摯に薬学のみならず、他の学問も学ぶことに徹して頂きたいと思っておりますし、その皆さんを全職員でサポート致します。

学ぶに徹するとは言え、ときには息を抜くことも必要です。バネも永久には伸びませんし、限界に達すれば脆いものです。余裕のある状態で学ぶことです。本学で学ぶ先輩、卒業された先輩の方々で作られた伝統的特徴のひとつは、学ぶときと遊ぶときの切り替えがうまいことです。6年間で、是非とも体得していただきたいと思います。そのためには、学間に

CONTENTS

■ 特集

- 薬用植物園ってどんなところ？
—薬用植物園・御陵園の活動紹介— 4

■ ご挨拶

- 新入生の皆さんへ 学長 後藤 直正 1
定年退職／新任のご挨拶 2

■ コラム

- 水中でぶつぶつ 8
卒業生からのメッセージ 9
私の薦める、私の一冊 17
学生相談室だより 21

■ 報告

- 京都私立独逸学校の初代校主中川重麗（四明）を知ろう・3
海外留学報告
（京都薬科大学科学振興基金・大学院生海外留学助成金）・13
大学院トピックス 13
2017年度入学試験結果と総括 18
2017年度大学院冬季募集・二次募集の入学選考結果 18
受賞 19
京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 24

■ イベント

- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「新規分子標的治療薬創薬に向けた
大学発ベンチャー基盤の確立」
Annual Meeting-2016報告書 10
京都薬科大学・京都橘大学看護学部
合同多職種連携（IPE）研修を開催して 11
自治会執行部主催 クリスマス企画 11
「お昼の学びサークル」
—発展的学びコンシェルジュ— 開催 12

■ お知らせ

- Library News 9
単位互換制度 12
奨学金について 14
お知らせ 15/20
2017年度「研究支援セミナー」概要 16
2017年度前期学費等の納入について 17
クラブだより 22
2017年度オープンキャンパス開催のお知らせ 23
京薬会だより 23
人事 24

励むことも必要ですが、刹那的にひとつのことに終始するのではなく、クラブ活動も含めた課外活動を自己に課し、うまく切り替えてゆく練習をしてください。それを身につけることができたならば、将来、大きな力を持った、信頼される社会人になれることでしょう。この伝統的特徴の体得に必要なことをもう一つ挙げましょう。良き友と知り合うことです。単位を取るためというような利己的な行動をとるような友ではなく、将来を大きく見る目をとも

に育める友です。6年間、バラ色の日々だけではないかもしれません。躓くこともあるかもしれません。そのときに、良き友は大きな支えとなってくれるはずです。俵万智さんの自選百首に、「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ（サラダ記念日）とあります。まさにこれです。

最後に、新入生の皆さん全員が6年間で大きな竹になるために、独りで悩まず、友に、また職員に話しかけてください。6年間の成功を祈っております。

定年退職のご挨拶



基礎科学系
薬学英语分野

教授 フォン フー ワー
(FOONG Foo Wah)

本学は薬学6年制に伴い、グローバルで質の高い薬学生の育成を目標として様々な教育計画を遂行してこられました。その一環として、今後の国際水準を見据えた基礎科学系薬学英语分野の講座が全国に先駆けて2010年の春に新たに設置され、私はその分野の教授として着任し、7年が経過しました。

私をこの分野へと駆り立てた大きな動機は、国際学会の質疑応答において、その返答に困惑している日本の科学者をしばしば目にしたからです。日本人科学者は高い専門性を身につけているにも関わらず、英語でのコミュニケーション力が乏しく、そのような状況を見て薬理学者であった私が医薬品の研究開発から科学・薬学英语へと専門を転換するきっかけになりました。

2012年にカリキュラムが改訂された際、私は新たに本学のためのStepwise-Stepup Tertiary Science

English Education (SSTSEE) システムを構築いたしました。このシステムを導入後、確信しましたのは、大部分の学生が、科学・薬学英语を以前よりも自信を持って楽しみながら学習しているということです。特に普通の英語と科学英語の表現法の基礎的な違いは学生達にとって新しい発見となったようです。

当分野には、計3期の学生（17名）が配属され、その学生達を海外でも研究発表させることができました。国際的な舞台での不安、達成感、苦勞、喜び等様々な経験を学生達と共有できたことは、私の人生における貴重な経験と喜びの一つとなりました。いつの日か卒業生がこの教育の有用性を再認識してくれることを願ってやみません。

末筆ながら、私に新たな日本の薬剤師を育ててゆく機会を与えて下さった京都薬科大学教職員の皆様、学生達の科学英語能力向上のため教科書作成にご尽力頂きました共著の先生方、そして配属学生諸君のお蔭で私の教職生活が満たされたものとなりましたことに深く感謝致しますとともに、本学のさらなる発展を祈念申し上げます。

新任のご挨拶



事務局
施設課

主事 柴田 憲利
のりとし

2016年12月1日付で入職し、事務局施設課に配属となりました柴田と申します。私は、大学卒業後に製造業企業へ就職し、前職では製品の分析・評価や社内環境設備の管理など、主にモノづくりをサポートする業務に従事していました。

施設課の業務は、学内の設備の発注・引受からメ

ンテナンス及び建物の修繕計画など多岐にわたります。それらの設備を経営資本と捉え、どのように効率的に維持管理していくかと、非常にやりがいのある仕事であると考えています。

私は、学内の排水処理設備の運転管理等を担当する予定となっています。前職までの経験を活かし継続的な大学運営の発展に貢献できるよう尽力して参ります。

日中は設備の調査のため学内を巡回していることも多いですので、ご用の際は声をかけて頂ければと思います。今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本年2017年は、本学の前身校である京都私立独逸学校の初代校主を務めた中川重麗（1850～1917、俳号は四明）の没後100周年にあたります（5月16日が命日）。本学関係者でも、レーマンの教え子の1人であった中川重麗の名を知る人はほとんどいないのではないのでしょうか。在職期間が半年にも満たないということもあるでしょう。1884（明治17）年4月に京都私立独逸学校が設立されると初代校主に就任しますが、9月には東京大学予備門（のちの第一高等学校、現在の東京大学教養学部）の教員を命ぜられ、京都を離れてしまいます。しかし、1917（大正6）年の逝去の時まで、本校の法人組織である京都独逸学会の幹事を務めていましたから、本学の歴史にとって欠くことの出来ない人物の一人であると言えます。



中川 重麗
『京都薬科大学
百年史』より

しかし、中川は、本学にとっての重要人物にとどまらず、近代の京都が生んだ忘れられたマルチタレントであると言っても過言ではありません。近代日本の黎明期の理化学者であり、ドイツ語翻訳家、教育者、ジャーナリスト（現在の『京都新聞』の前身である『京都日出新聞社』など）、少年文学・雑誌の著述刊行者、美術評論家で美学研究家でもあり、そして俳人として、正岡子規と同時代の京都における俳句革新運動の中心人物として知られた多才な人物だったのです。ちなみに、1910（明治43）年に刊行された『四明句集』は、本学図書館にも所蔵されています。

中川は、京都の西町奉行与力の下田家の次男でしたが、のちに二条御城御門番組与力の中川家へ養子に入りました。通称を豊蔵（登与蔵とも）と称しました。ちなみに、3歳年下の4男六蔵は東町奉行与力の草間家の養子となった草間時福で、松山英学所（愛媛県立）の初代所長（のち松山中学校校長）となります。草間は慶應義塾に学び、明治8年に設置された松山英学所の初代所長に赴任し4年間在職しました。松山中学校（現在の松山東高等学校）は、正岡子規の学んだ学校であり、また夏目漱石が1895（明治28）年から翌年にかけて教鞭をとり、その作品『坊っちゃん』の舞台として知られています。

中川重麗および草間時福の実父下田耕助は、文芸の趣味や教養を身につけていた人物だったようです（後掲の清水貞夫『俳人四明覚書』四）。読書家・蔵書家であり、こうした点が子どもたちにも影響したと思われます。明治にはいって、中川は京都府が設けた欧学舎に入り、ルドルフ・レーマンの教養を受けることに

なるのです。

洛北の修学院離宮や詩仙堂の近くに金福寺というお寺があります。同寺は、与謝蕪村が再興した芭蕉庵でも知られ、近世から近代にかけての俳人とも深い関わりを持っています。その境内の一角に、「中川四明句碑」というものがたたずんでいます。「時雨るるや軒しほの干菜ぼしなの鋤しころ釣り」というもので、晩秋あるいは初冬の頃、思わず時雨に雨宿りした軒下に吊るされた大根か何かの干菜が鋤（兜の左右・後方につけて垂らし、首から襟の防御とするもの）のように見えたという意味でしょうか。前述したように、中川四明は幕末京都の武士の出自です。「鋤釣り」という表現に、そうした中川の出自が垣間見えます。



金福寺境内にある
中川四明の句碑

中川の墓は、阪急西院駅の近くの日照山高山寺にあります。重麗ではなく、俳号の四明と刻まれたことは、中川の遺言であったかどうか知りませんが、俳人として最期を終えたこととなります。裏面には、中川の業績を記す漢文調の銘文が刻まれ、そこには「同志と謀り、独逸学校私学を創設し、独書を講じる。実はかにこれは嚆矢こうし〔物事の初め〕である。君は、子弟の教育じゅんじゅんに諄々うとして勤め、倦むことなく後進しょうえきを奨掖つく〔助け導くこと〕し、ただ才を竭せないことのみを恐れれた。ひとたび有為ゆういの士あに遇えば、たちまちにして年齢の差も忘れて交わりを結んだ」（原文を現代文に直した）とあり、中川のひととなりひととなりが窺われます。



高山寺境内にある
中川四明と妻子の墓

中川については、清水貞夫『俳人四明覚書』全5冊（1992年、1993年、1996年、2007年、2011年、現代文藝社、非売品）に詳しく書かれています（第4冊だけは本学図書館に所蔵）。また、私も「京都私立独逸学校初代校主中川重麗（四明）のこと」と題して『京葉会誌』135号（2012年2月）・136号（同8月）・137号（2013年2月）に書かせていただきました。中川重麗没後100周年を機に、是非その多才な業績を知っていただきたいと思います、簡単な紹介をさせていただいた次第です。

薬用植物園ってどんなところ？ —薬用植物園・御陵園の活動紹介—

江戸時代の前半に生きた、福岡藩の本草学者貝原益軒(1630～1714年)は『大和本草』の著者として知られています。益軒の晩年、1709年に刊行された書で、明末に李時珍(1518～93年)が著した『本草綱目』(1596年刊)を踏まえながらも、日本の固有種を加え、また和名をあてるなど、日本人による初の本格的な本草書と評価されています。本草学というのは、古代の中国に起源をもつもので、生活のうえで必要な自然物、とくに薬物や食物となる自然物についての総合的な知識を記述する学問ですが、現在の薬学のうちとくに生薬学の淵源ともなっています。益軒の著書は、中国由来の本草学が日本の学問として自立し始めたことを示す記念碑的な書です。

さて、本草学は必ずしも植物に限らず、動物や鉱物をも含むもの(のちには、博物学として展開していきま)すが、植物が中心であることは言うまでもありません。薬と植物は切っても切り離せない関係にあります。化学的に合成された薬が主流となっている現在では、漢方薬や民間薬に関心を持っている人を除けば、薬と植物との関係はなかなか意識されにくいものです。本学には、90年以上の歴史をもつ薬用植物園(当初は、薬草園)という附属施設があります。編集委員会では、本号において、この植物園を関係の皆様にご紹介させていただきたいと思い、特集記事として企画しました。生薬学分野の松田久司教授(薬用植物園長兼任)、中村誠宏准教授、薬用植物園の月岡淳子助教と前田晋作助手の諸先生には、原稿をご快諾いただき、編集委員会の企画案を実現させることができました。編集委員会を代表して、お礼を申し述べさせていただきます。

KPU NEWS 編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

■はじめに

本学薬用植物園の歴史は、1925(大正14)年に始まります。当時、本学(当時は京都薬学専門学校)

えびすがわ
の校舎は、上京区(現在は左京区)夷川通川端東入ル
あきつき
秋築町にありましたが、最初に「京都薬学専門学校薬草園」が作られたのは山科区(当時は、宇治郡山科村)御陵の地でした。1932(昭和7)年、御陵中内町への校地移設を機に、校地内に薬草園が移設されました。その後、国道工事等の影響もあり、校地内での移動もありましたが、その間も多くの教職員や学生有志のご尽力、他大学、植物園や企業、そして近隣の方々のご協力を得ながら植物種数を増やし、徐々に薬草園として整備が進んでいきました。1968年に伏見区日野に全面移転し、2011年には本学グラウンド横に「薬用植物園補助園(現在は、御陵園)」が完成し、現在に至ります。

■薬用植物園(伏見)の概要

1968(昭和43)年、薬用植物園は伏見区日野林に移設されました。日野は、藤原北家の一族である日野家ゆかりの地で、国宝の阿弥陀堂、阿弥陀如来像を有する法界寺(日野薬師)や、鴨長明が『方丈記』を著したとされる方丈の庵跡(方丈石)があり、歴史を感じられる地域です。少し高台になっているため、山科南部から醍醐を広く見渡すことができ、条件を整えば非常にきれいな夕陽を見ることができます。明治初期に作成された地図によると、現在の薬用植物園周辺は、水田や畑、茶畑として利用されていたようです。土質が薬用植物の栽培に適しているということからこの土地が選定され、山林、畑地の起伏がある立地条件をほぼそのまま活かして整備されました。約13,000㎡の敷地には、見本園、

薬用植物園 園長 松田 久司(生薬学分野 教授)

ほ
試験圃場、温室、樹木園、標本室・講義室を備えた管理棟があります。2018年、薬用植物園は移設50年を迎えます。



見本園(右奥に見えるのは醍醐の町)

■栽培植物

見本園では、日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に展示植栽しています。汎用される薬用植物だけでなく、民間薬として利用される植物や染料、香料植物など、有用植物全般を観察できるように植物種を選定し、現在約1,000種を栽培しています。移植された植物の中には環境に合わずに枯死したものもありますが、移設から約50年が経ち、多様な生態系を作り出しています。個々の植物を観察するもよし、生態を観察するもよし、そこに集まる動物や虫を観察するもよし、様々な角度から学ぶことができます。



フジ棚と管理棟(5月上旬)



ハス（7～8月）



標本室（さく葉標本棚）



イロハモミジ（11月下旬）



ケシレプリカと樹脂封入標本（コガネバナ）



サンシュユ（12～1月）

■標本、教材

管理棟1階の標本室には、さく葉（押し葉）標本、生薬標本、ドイツ・メルク社製生薬標本などが収蔵されており、調査、修復、データベース化を行っています。また、1900年代半ば頃に、本学の講義で使用されていたと思われる「薬用植物図譜」も約110点保管しています。近年は教材として、法規制植物のレプリカや、植物の樹脂封入標本などを製作し活用しています。

■総合薬学研究

3年次後期からは総合薬学研究が始まります。薬用植物園では、主に薬用植物の栽培に関することをテーマに、圃場の耕耘、施肥、水やり、除草作業など、植物の管理を行いながら研究活動をしています。自然相手の研究のため、夏は暑くて冬は寒いで、研究材料を野生動物に食べられるなどの苦労も経験しながら、植物について学んでいます。



実習風景

■薬用植物園御陵園の概要

薬用植物園御陵園（以下「御陵園」という）は2011年に薬用植物の見本園として本学グラウンドの南側に設置されました。

開園当初は薬用植物園補助園という名前でしたが、2015年に現在の名称に変更されました。

面積約2,700㎡の敷地には圃場、温室、池、庭園があり、それぞれの場所に薬用植物を植栽しています。現在は日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に約230種を保有しています。



御陵園の全景



御陵園の温室内部

■御陵園の教育活動

御陵園では、1年次の早期体験学習や3年次の天然医薬品実習で薬用植物の基礎知識を習得するための見学実習を実施しています。実習は薬用植物に関する講義と植物観察を合わせて行っており、植物の和名や学名、形態的特徴や利用部位、用途等を学習することを目的としています。



早期体験学習の様子

園内で行う観察の際には薬用植物の葉や茎の形や質感を手で触れて確かめたり、花の色をじっくり見たり、植物の持つ芳香を嗅ぐ等の体験を重視しています。

この実習では参加した学生が座学の知識と観察した経験を結び付け、薬用植物についてより深く理解していくことを目指して教育活動に取り組んでいます。

■学内向けの定期開園

実習以外の時間も薬用植物を観察できるように御陵園では本学の学生と職員を対象に定期開園を行っています。ぜひご見学下さい（学外の方への開園は行っておりません）。開園日時は毎週金曜日の12時30分～16時です。臨時休園する場合もあるので、具体的な見学日は愛学館1階の掲示板でお知らせしています。見学に関する詳細は本学学生便覧の薬用植物園御陵園の見学のページをご覧ください。

その他、開園日以外に見学したい、興味をもった薬用植物を観察してみたい、薬用植物を育ててみたい、講義で活用したい、部活動で見学をしたいなどの希望がありましたら御陵園職員までご相談下さい。

■学外向けの活動

御陵園では、本学の社会貢献活動の一環として、薬用植物の普及・啓発を目的に年に1度、秋に実施される本学の公開講座で、薬用植物に関心のある地域の方々を対象に見学会を行い、薬用植物を観察し、学ぶための機会を提供しています。

また、オープンキャンパスや本学の見学のために来学した中学生や高校生に御陵園の施設や栽培している薬用植物について紹介する活動等も実施しています。



公開講座の様子

■これからの御陵園

設置されて6年経った御陵園は施設や栽培環境の整備段階から学習的活用を活発に実施する段階に移りました。

今後、定期的開園日に学生や職員を対象に小規模な薬用植物の観察会を行い、薬用植物に親しみ、学

ぶ機会を設けることを予定しています。観察会の情報も愛学館1階の掲示板にてお知らせします。

これらの活動をはじめ薬用植物を活かした様々な取り組みを展開することで、薬用植物の学習機会を増やすとともに学習内容の向上に貢献することを目指しています。

御陵園の活動の情報や見頃の植物を紹介した「御陵園のフィールドノート」を随時発行しており、ホームページで見る事ができます。是非、一度ご覧ください。

御陵園で四季折々の薬用植物を観察してみませんか。

■おわりに

今回、薬用植物園を紹介するにあたり、『京都薬科大学八十年史』や『京都薬科大学百年史』（本学図書館で閲覧可）などを参考にさせていただきました。京都薬学専門学校薬草園時代に学生服姿で鋤を手に畑を耕す様子など、貴重な写真を見ることができます。除草や台風被害等に苦勞されたことなど当時の様子が細かく記録されており、設置から今日に至るまで、多くの教職員や学生有志のご尽力、学外から頂いた沢山のご協力に改めて感謝したいと思います。現在、全国的に見ても珍しい2園体制で活動しています。教職員、学生の皆さん、是非ご活用下さい。



モモ（3～4月頃）



オニユリ（7月頃）



アマチャ（6月頃）



サフラン（11月頃）

■見学について（詳細は学生便覧参照）

【薬用植物園】

見学時間：月～金 9:30～16:00（大学が定める休日及び土日祝祭日は休園）

見学希望日の「3日前」までに、大学庶務課または薬用植物園にお申し込み下さい。

（実習・研修会や園内管理の都合上、入園できないことがありますので、必ず事前にご連絡下さい。）

見学の際は学生証、職員証をお持ちください。駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。

問い合わせ：075-572-7952（薬用植物園直通）

【薬用植物園御陵園】

定期開園：毎週金曜日 12:30～16:00（大学が定める休日及び土日祝祭日は休園）

定期開園日以外の見学を希望する場合は御陵園職員にご相談ください。

見学の際は学生証、職員証をお持ちください。駐車場はありません。

《参考》『京都薬科大学百年史』（1985年）381ページには、薬用植物園の創設前後の様子について以下のよう
に記述されています。参考のために転載いたします。

大正14年（1925）、滋賀県坂田郡教育会経営の伊吹山植物園を実習のため使用することになり、5月に借
用契約を結んだ。8月下旬に同園の整理を行い、年末に細部の協議後、使用できるようになった。この薬草
園は数年後に消滅したが、植物採集や研究、生徒の初歩的な勉学に大いに役立った。

また同じ時期の大正14年5月、山科御陵に約1反歩の土地を借用することができ、初めて京都薬学専門学校
附属薬用植物園が創設され、6月に有志の教授、生徒らが協力して10数種の薬草を栽培した。その後学校が
山科へ移転するまで、有志の生徒たちは放課後秋築町の校舎から通い、この薬草園の整備や学習に取り組ん
だ。

冒頭に記された伊吹山は、「百人一首」にも取り入れられた「かくとだにえやはいぶきのさしもぐささしも
知らじな燃ゆる思ひを」（藤原実方）に歌われているように、古くからモグサを初めとする薬草で知られてき
た山です。



（鈴木 栄樹）



水 中 で ふ っ ぶ っ

きつね、たぬき、そして「むじな」である
- 世の好みにしたが、今宵は食のぶつぶつ -

- 第 2 話 -

うどんメニューの命名には法令も規約もない（きつと）。私には、井からはみ出んとする甘い揚げがのった
「きつねうどん」が原点(0, 0)で、そこから離れた座位に「きざみ（京風）きつねうどん」、さらには「たぬ
き」がある（と自己中心的に決めている）。「たぬき」は、そばを台にしたきつね風のものもあれば、天かす
がのったものもあり、うどん台のものもあり、地域、店によって、はたまた手抜きなどさまざま（喧しい論争
が起こりそう）、つまり主義・主張が一貫せず、言うなれば、第1以外の象限に散らばった「きつねの日和見
的パロディー」であると考えてきた。しかし、大阪崇拝、もう少し寛容に言うなれば、東（あづま）方向に文
化を下げる上方を中心として物事を理解している身には身の毛もよだつ、上方では見ない新物を発見した。東
京のJR飯田橋駅の立ち食いソバの店頭の写真付き客寄せ天幕で見た！「むじな」である。私は写真を見てし
まった。「むじな？なんじゃい、それは？」である。？である。「同じ穴のむじな」のむじなやろう。「ムジ
ナ（貉、貉）とは、主にアナグマのことを指す。地方によってはタヌキやハクビシンを指したり、これらの種
をはっきり区別することなくまとめて指している場合もある（ウィキペディアより）」とある。アナグマ、タ
ヌキ、ハクビシン、これでは飯田橋で見たものには近づかない。さあ、考えてもらおう。GoogleさんやYahoo!
さんに「むじな そば」と聞くのは止めましょう。慌てなくとも「むじな」は無くなりほしくない（だろう）。
分からぬものをすぐにGoogleやYahoo!に尋ねてしまう習慣は、ときとして身を滅ぼすことに繋がります（大げ
さな）。東京・飯田橋に下る機を伏して待ちましょう。機に乗じて見分するという「アナログ」もときにはい
いものではないでしょうか。ここまで書いてきて、「あつ、すう（素）うどん」を忘れていたことに気づい
た。はて、その位置は？お酢の入ったまずいうどんと思っていた子供のころの失敗があるので、すううどんの
位置は考えたくない。皆さんが考えてください。

学長 後藤 直正

武勇伝を作ろう

かずま ゆうこ
数馬 裕子

2012年 学部卒業
(病態生理学分野)

ヤンセンファーマ株式会社
トライアルオペレーション部
臨床開発モニター



みなさんには、「武勇伝」はありますか？いきなりなに？と思われたかもしれないので、言い方を変えましょう。みなさんは、自信を持って「これだけは頑張った」と、人に話すことができる経験はあるでしょうか？

私の武勇伝を1つ紹介したいと思います。学生の頃より海外志向の強かった私ですが、ある時に、日本と海外の薬局の違いが気になりました。ネットで情報収集ができる時代とはいえ、何事も百聞は一見にしかず。自分で見てみたいという欲を抑えられず、ついにはIPSFという「薬学生の集い」に交換留学制度があるらしい、と聞きつけ、最終的には個人的にドイツの薬局のオーナーに頼み込み、インターンさせていただいた、という話です。実は、その時の体験談をちょうど9年前のKPU NEWS (No. 157) に書いています。詳細が気になる方はバックナンバーをご覧ください。

こんな私ですが、卒業して早5年、1度の転職を経て、現在は製薬会社で新薬の開発をしています。いわゆる治験ですが、その中でも最上流の臨床開発モニターです。モニターは、全国各地にある各医療機関に出向き、治験が行える状況かを調査します。そしていざ治験が始まると、モニタリングを行います。モニタリングとは治験に参加していただいている被験者の権利や安全性が守られているか、データが正確で信頼できるものかどうかを確認することです。医療機関で被験者の生データ（カルテ）を見ることができるのは私たちだけなので最も重要な仕事と言えます。必要とされている薬をいち早く患者のもとに届けるのが製薬会社の使命です。モニターが正確なデータをいかに早く収集できるか、が新薬開発のスピードの鍵となります。常に緊張感のある現場で仕事をしているので、大変な事ももちろん多いです。しかし、それ以上にやりがいが大きく、「患者さんの体調よくなったよ」という声を聞くと、ますます頑張ろう、と思えます。

これから社会人になるにあたり、進路に悩むことも多いと思います。しかし、その前に、薬学部という狭い枠組みにとらわれず、もっともっとたくさんのことにチャレンジしてみてください。経験は宝です。「武勇伝」が増えれば増えるほど、友達も増えるし、就職活動の際に、アピールポイントが増えてプラスになること間違いなしです。また、モニターに興味がある、という方、熱意ある後輩と同じ世界でお会いできることを楽しみにしています。

Library News

図書館

開館日程

2017年 4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2017年 5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2017年 6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

8:30-21:00

10:00-17:00

休館

休館=館内整備

研究代表者 芦原 英司（病態生理学分野 教授）

日時：2016年9月28日（水）13：30～18：00

場所：京都薬科大学 愛学ホール

参加者数：138名

（職員28名、学部生・大学院生110名）

本私立大学戦略的基盤研究形成支援事業プロジェクト「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」では、9分野1センターから12名、広域大学知的財産アドバイザー1名と学外の2施設から2名、計15名が参加している。2016年9月28日に開催されたAnnual Meeting-2016では、昨年度から1年間の進捗報告会（口頭発表、ポスター発表）と2つの特別講演を行い、本学学部生、大学院生、教職員および他学教員を併せて138名が参加した。

開会に際して、後藤直正学長から本プロジェクトは、学内共同研究推進の使命だけではなく、教学的意義も有することの説明があり、本プロジェクトへの期待を開会の辞としてご挨拶いただいた。引き続き、本プロジェクトの研究代表者である芦原が、本プロジェクトの概要を説明した。



ポスター発表

次に、第1部「共同研究の進捗報告」として2題口頭発表、第2部として「各研究参加者の進捗報告」が参加研究者から4演題の発表がなされた。どの口頭発表においても活発な議論がなされた。引き続き愛学館A32講義室前で、ポスター発表（10演題）を行った。ポスター発表においても、学部学生・大学院生を交えて活発な質疑応答がなされた。

次に、AMED創薬支援戦略部創薬コーディネーターの中山敦先生から、特別講演(1)「アカデミア発研究成果を医薬品に結びつけるための知的財産戦略」を、京都府立医科大学大学院医学研究科分子標的癌予防医学の酒井敏行教授から、特別講演(2)「BR再活性化スクリーニングを用いたMEK阻害剤trametinib（商品名Mekinist）の発見」をいただいた。いずれの講演にも活発な質疑応答がなされた。



中山 敦 先生



酒井 敏行 先生

外部評価員である京都大学大学院薬学研究科薬品合成化学分野の高須清誠教授に、本Annual Meetingのご講評をいただいた。「口頭発表では分子標的治療薬のヒット・リード化合物の探索、最適化ならびに新規アッセイ方法の開発について着実に成果があがりつつあること、またポスター発表ではたくさんの学生が成果報告について熱心に演者とディスカッションする様子がうかがえ、今後の発展が大いに期待できる。さらに本事業に参画する若手教員が研究領域の垣根を越えて親密に情報交換をしていることが目を引き、このようなよい雰囲気はプロジェクト全体の活気に波及する。今回のAnnual Meetingは大成功であり、事業自体も順調に進捗していることが強く感じられた」と、極めて高い評価をいただいた。

高須 清誠 先生

最後に、合成・相互作用解析グループリーダー 薬品化学分野 赤路教授から、本プロジェクトのさらなる進捗を誓う言葉があり、盛会のもと、本Annual Meetingは終了した。

今後も定期的に進捗会議をもち、分子標的治療薬候補化合物の創製を目指すとともに、新たな“知の創造”に向け、本プロジェクトを遂行していく。



臨床薬学教育研究センター 講師 今西 孝至

2025年問題を解決するためには、疾病に対する治療のみでは不十分であり、疾病の予防や発症後の介護・福祉も含めた医療サービスを提供する必要があります。そのため、自らの専門的能力だけではなく、他職種の役割を理解した上で、多様な専門職と協働し、患者や利用者のニーズに応えていく実践的な能力を身に付け、医療現場で働き始めた当初から円滑なチーム医療を実践できるように学生時代からしっかり多職種連携について理解しておく必要があります。そこで、初めて実践薬学コース地域医療ユニットのプログラムの一環として京都橘大学看護学部と合同で多職種連携教育(Interprofessional Education: IPE)研修を行いました。IPEの目的は「①医療チームの一員として自分の専門職の役割を理解する」、「②他の専門職の視点、考え方、役割を学ぶ」ことであり、異なった医療教育を受けている薬学生・看護学生が共に話し合いを通じて多職種連携の考え方などを知り、各職種にはどのような強みがあってチーム医療に貢献できるのかを理解することが大きな目的です。

本研修会に参加した学生は37名（京都薬科大学：5年次生17名、京都橘大学看護学部：4年次生20名）でした。研修は「心原性脳梗塞により片麻痺になった患者の在宅医療に対する薬剤師と看護師とのチーム連携」についてシナリオを使ってグループワークを行いました。実際に研修会を行ってみると、参加した学生達はこれまで異なった医療教育を受けてきているため、時には反発しあいながらも積極的に議論を重ね、

最後にはお互いの立場を尊重し、各々の職種の強みや弱みを理解し、協働して在宅で患者をケアするという素晴らしい結論を導いてくれました。

研修終了後の学生達の意見を聞くと、薬学部の学生達は「看護師さんの視点を知ることができたとともに、薬学部で習ってきた知識をどう活かすかを考えることのできるいい機会になった」や「薬学部生は治療のことを考えがちだけど、患者さんの思いに沿った治療を行うためには看護師の力が不可欠だと感じた」など、一方で看護学部の学生達は「薬学部の学生さんは薬剤の量や飲み合わせ、服用方法など看護学部の学生では気付かない視点も見ていた」や「薬剤一つでも飲み合わせや作用・副作用などから注記すべき点など看護からは気付けないことに気付けた」などがありました。

その中で私が強く印象に残った学生の意見は、「それぞれの領域でプロフェッショナルであるからこそ、自分たちが持っている視点というのは専門職としての分野であり、医療職全員が当たり前に持っている視点ではないと思った」です。まさにこの意見は上述したIPEの目的であり、改めてこの研修会に参加した学生達はIPEについて大いに学ぶことができたと言っていました。また、「貴重な経験が学生のうちにできて良かった」や「ぜひ今後も同じような機会を作るべき」という意見も多くあり、今後もこのような研修会を続けて行く必要があると再確認しました。



研修終了後の全体写真

自治会執行部主催 クリスマス企画

自治会では、2016年度もクリスマス企画を実施しました。試験も迫り勉学に忙しい学生生活の中に、クリスマスの楽しさを入れられたらと考え、クリスマスツリーを飾らせていただきました。準備が遅れたこともあり期間は短かったのですが、少しでも皆さまに楽しんでいただけたら嬉しく思います。今後とも、学生が明るく豊かで季節感のある学校生活が送れるような企画を考えていきたいと思っています。実施にあたり協力して頂いた学生課、教育後援会の皆さま、本当にありがとうございました。



薬学教育研究センター長 教授 細井 信造

本学では、学修フォローアップとして次の2つの支援を行っています。1つは学修方法に不安を抱える学生の相談や学修内容に関する質問等について薬学教育研究センターの教員が対応する「学びコンシェルジュ」（教員主導）、もう1つは以下の「発展的学びコンシェルジュ」（学生主導）です。

「発展的学びコンシェルジュ」では、学生が学生を支援する本学独自の文化を創り出すことを目標としています。支援を受ける学生は、早期に勉強方法を見直すきっかけをつかむことにより、学ぶ楽しさを実感し、学力の向上に繋ぐことができます。また、支援する学生（サポーター学生）は、学修支援を通して、自らの知識を再確認し、他者に伝えるための工夫や思いやる心を身に付けることができ、社会人となり後輩を指導し育てることに繋がる貴重な経験となります。これは、「薬剤師として求められる基本的な資質」の1つである教育能力：「次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する」に相当します。

発展的学びコンシェルジュとして、2015年度には5名のサポーター学生による学修相談会を2回開催しま

した。2016年度には、学生主導による学修支援体制の定着を目指して、まず昼休みの時間を利用して計4回にわたり「お昼の学びサークル」と称した勉強会を開催しました。テーマとしては身近なものや学生の関心の高そうなものを選びました（第3回：インフルエンザウイルス、第4回：アスピリンの休薬期間とその理由について、など）。これを通して、学生主導による学修支援の輪が広がることを期待しています。

2017年度も引き続き「お昼の学びサークル」を開催しますので、是非、気軽に参加してください。これがきっかけで、もっと学びたくなると思いますよ。



プラクティテラスでの学びサークルの様子

News

単位互換制度 ～他大学の科目・講座を受けてみませんか～

教務課

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しています。単位互換制度とは、大学コンソーシアム京都に参加している京都府内を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定される制度です。昨年度は48大学から457科目が提供されました。

修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年科目は1科目4単位まで）を限度として、卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます

（2011年度までの入学生については、1年間2科目4単位までを「人と文化」の単位とし、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます）。

他大学の授業を受講し、さらに学びを深めてみませんか？

なお、単位互換科目の取扱いについての詳細は、学生便覧並びにシラバスを参照して下さい。

■ 単位互換制度の魅力

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されています。
- ②講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されています。
- ③講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がります。
- ④受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができます。
- ⑤全ての科目を無料で受講できます。ただし、科目によっては、参考書等テキスト代等が必要です。

■ 受講申し込み

受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月12日（水）までにWebにて出願票作成後、教務課に提出して下さい。詳しい出願方法・授業概要・シラバス等については大学コンソーシアム京都のWebサイトを参照して下さい。

<https://el.consortium.or.jp/login.php>

なお、上記URLからは科目開講時に休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

■ アメリカ研究留学

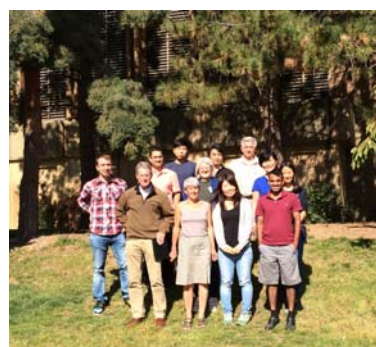
薬学研究科薬学専攻博士課程4年次生（寄稿時） 太田 智絵

私は2016年4月～9月の6ヶ月間、アメリカのプルマンにあるワシントン州立大学Norman G. Lewis教授の研究室に留学をさせていただきました。カンレンボクに含有するカンプトテシンの生合成の解明というプロジェクトのチームに所属させていただき、カンプトテシンの生合成過程で生成する中間体を単離していました。同じ研究チームのメンバーやポストドクとは常に研究についてディスカッションを行い多くの新しい発想のヒントを得ることができたことから、私自身の研究がスムーズに進行し主要なカンプトテシンの中間体を

得ることができました。また日々のディスカッションにより、私の英語力も向上にもつながったと感じています。こうしたアメリカでの研究留学生活で得た経験を今後の研究活動に活かしていきたいと考えております。また多くの学生に本学の大学院生海外留学制度を活用して国際的な視野を養って頂きたいと思います。最後になりましたが、本留学にあたり経済面に支援していただいた京都薬科大学科学振興基金並びに様々なサポートしてくださった本学の皆様に心から感謝申し上げます。



ワシントン州立大学の時計台



研究室のメンバー

最前列右から4人目：Lewis教授
最前列右から2人目：筆者

大学院トピックス

Report

研究科長 赤路 健一

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、大学院の教育・研究関連のイベントを報告いたします。是非、ご覧ください。

- 2016年 -

■11月15日（火）平成28年度 5大学連携「医療フォーラム」

場所：芝蘭会館 稲盛ホール

薬学専攻博士課程4年次生松村健吾さん（臨床腫瘍学分野）が教育研究成果発表を行いました。

「癌細胞における γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼ欠乏はCDKIを誘導し細胞老化を惹起する」

- 2017年 -

■1月11日（水）第27回「とにかく英語を口にしよう」

薬学専攻博士課程3年次生勝部友理恵さん（臨床薬学分野）

「国際学会でのデジタルポスター発表を終えて」

11月にデンバーで開催されたAmerican Association of Pharmaceutical Scientistsでのデジタルポスター形式の発表の様子などが報告されました。教育職員、事務職員、大学院生、学部生など19名が参加し、活発な質疑応答が行われました。



第27回 勝部 友理恵さん

■1月25日（水）薬学専攻博士課程・薬科学専攻博士後期課程学位論文口述発表

薬学専攻博士課程5名、薬科学専攻博士後期課程3名による口述発表を行いました。

学生生活における経済的な不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるように奨学金制度があります。募集については、随時奨学金用掲示板（愛学館1階事務室前）でお知らせします。出願の機会を逃さないようにして下さい。

なお、家計が急変した場合には、緊急・応急での採用も随時可能ですので、学生課に相談して下さい。

■ 日本学生支援機構奨学金

経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資として貸与されるもので、貸与が終了した後、必ず返還しなくてはなりません。家庭の経済状況等に基づき、奨学金の貸与を受ける必要性、適正な金額、返還時の負担のことなどを十分考慮のうえ申込みをして下さい。定期募集は、年1回4月の募集のみです。奨学生に採用されると、卒業するまで貸与を受けることができます（留年中は停止）。

また、給付型奨学金については、平成29年度進学者から一部先行して実施されます。詳細については、日本学生支援機構奨学金ホームページまたは学生課にお問い合わせください。

【奨学金の貸与月額】

奨学金の種類	貸与月額	
第一種奨学金 (無利子貸与)	自宅月額	30,000円、54,000円（何れかを選択）
	自宅外月額	30,000円、64,000円（何れかを選択）
第二種奨学金 (有利子貸与)	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から希望月額を選択 さらに最高月額（120,000円）に月額20,000円の増額希望可能	
入学時特別増額貸与 奨学金（有利子）	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択（大学1学年において 入学年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象）	

【奨学金の選考基準】

奨学金の種類	募集月	学力基準	年収・所得の上限額の目安			
			給与所得世帯		給与所得以外の世帯	
第一種奨学金 (無利子貸与)	4月	高校 評定平均値 3.5以上	通学形態	上限額	通学形態	上限額
			自宅	800万円	自宅	392万円
			自宅外	847万円	自宅外	439万円
第二種奨学金 (有利子貸与)	4月	特に定めない	通学形態	上限額	通学形態	上限額
			自宅	1,143万円	自宅	735万円
			自宅外	1,190万円	自宅外	782万円

- 注) 1. 年収・所得の上限額は、4人世帯の場合の父母の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。
2. 給与所得者（年金受給者を含む）の場合は、源泉徴収票の支払金額（税込）です。
3. 給与所得者以外の場合は、確定申告書の所得金額です。
4. 基準を満たしていても、日本学生支援機構からの推薦内示数の関係で採用されない場合があります。

■ 京都薬科大学独自の奨学金

給付・減免型奨学金は返還の必要がない奨学金です。給付型奨学金（研究・課外活動優秀者部門）、遠隔地出身学生給付型奨学金、貸与型奨学金の募集については、掲示板でお知らせします。

名称		金額	採用予定者数 (2017年度)	対象等	募集時期
京都薬科大学 給付型奨学金	入試成績優秀者	半期授業料の1/2	約10名	新入生対象、入試成績優秀者を大学選考。	大学選考
	成績優秀者	5～20万円	各学年 約15名	2年次生～6年次生：前年次成績優秀者を大学が選考。	大学選考
	研究・課外活動優秀者		約10名	研究・課外活動において、顕著な実績又は成果を挙げた者。公募制。	2～3月
	遠隔地出身学生	60万円（月額5万円）	各学年 約10名	1年次生～4年次生：近畿2府4県以外に自宅があり、下宿生活をしている成績優秀者。公募制。2015年度入学者より適用。	4月
京都薬科大学 授業料減免型奨学金		半期授業料の減免	約30名	家計における経済的な事情により授業料の支払いが困難となった者。在学中6回まで。	随時
京都薬科大学 貸与型奨学金		年額授業料の1/2以内	約10名	無利子貸与。 授業料の支払が困難な者。 貸与回数は原則、在学中に1回のみ。	9月

■ その他の奨学金

地方自治体や企業、その他団体の奨学金制度があります。募集がありましたら、奨学金掲示板（愛学館1階）でお知らせしますので、確認して下さい。その他奨学金の募集に関して、申請を希望される方は学生課までご相談下さい。

【学生課を通じて募集している主な奨学金】（2016年度実績）

奨学団体名	種別	月額	出願資格
河内奨学金	給付	40,000円	薬学部 1年次生
佐藤奨学会	給付	25,000円	大学・大学院に在籍し、学業・人物が優秀であり、学資支弁が困難と認められる学生
森下仁丹奨学金	給付	30,000円	志操堅実、学力優秀であり、経済的理由により学業の継続が困難な大学生・大学院生
山口県ひとづくり財団奨学金	貸与	52,000円	保護者が山口県内に住所を有しており、経済的な理由により修学が困難と認められる学生
朝鮮奨学会	貸与	25,000円	学部・大学院の正規課程に在籍している韓国人・朝鮮人学生
あしなが育英会	貸与	40,000円	保護者が病気・災害等で死亡またはそれらが原因で後遺障害を負っている学生
交通遺児育英会	貸与	40,000円～	大学・大学院に在籍しており、保護者等が交通事故により死亡または高度後遺障害を負った者

News お知らせ

■ 学生総合保障制度【入学時本学がご案内した任意保険】の引受幹事保険会社 合併に関するお知らせ

引受幹事保険会社のAIU損害保険(株)は、富士火災海上保険(株)と2018年1月1日に合併し、同日付で新会社AIG損害保険(株)となることと決定されました。

合併による補償内容等の変更はありません。

詳細は逐次ご案内いたします。

【問い合わせ先】

取扱代理店：近電商事株式会社

担当：阿倍、有田

TEL：06-6233-5951

研究支援セミナーは、学会発表や論文作成などに役立つ薬剤師のためのセミナーです。
皆様のご参加をお待ちしています。

■ 2017年度 研究支援セミナー1 (PC演習・入門編)

- *日時：2017年8月20日（日）13:00～15:00（120分×1コマ）
- *講師：京都薬科大学 情報処理教育研究センター長・教授 藤原 洋一 先生
- *テーマ：臨床研究に役立つデータ解析技能 ～表計算ソフトExcelの活用からレポート作成まで～
- *受講料：3,000円（テキスト代含む）
- *定員：50名
- *認定単位：共催・公益財団法人 日本薬剤師研修センター G01 1単位／日
- *右記バージョンPCの基本操作必須：Windows7・office2010（他受講条件あり）

■ 2017年度 研究支援セミナー2&3 (講義&PC演習・基礎編)

- *日時：2017年9月10日（日）12:00～17:20（前半講義90分×2コマ、後半PC演習120分×1コマ）
- *講師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター長・教授 矢野 義孝 先生（講義、PC演習）
臨床薬学教育研究センター 助教 松村 千佳子 先生（講義）
- *前半テーマ：研究支援セミナー2（講義）
 - ①「薬剤師による臨床研究 ～計画の立て方と研究の進め方の実際～」
 - ② 演習・SGD「臨床試験計画の立て方の実際」
- *後半テーマ：研究支援セミナー3（PC演習・基礎編）
「臨床研究のためのデータ解析技能 ～統計計算手法の習得と結果の解釈～」
- *受講料：5,000円（テキスト代含む）
- *定員：50名
- *認定単位：共催・公益財団法人 日本薬剤師研修センター G01
講義：計2単位／日、PC演習：1単位／日（注：配付条件あり）
- *右記バージョンPCの基本操作必須：Windows7・office2010（他受講条件あり）

■ 申込方法

- 右記URL各プログラム専用サイトの申込フォームからのお申込み限定 <http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>
- *研究支援セミナー1：2017年4月11日（火）～6月18日（日）
 - *研究支援セミナー2&3：2017年4月18日（火）～7月9日（日）

■ 問合せ先：京都薬科大学 生涯教育センター

- *TEL：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ 10:00～16:00）
- *FAX：075-595-4683（24時間受付）
- *E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

- ◆ 詳細はホームページ(<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>)をご参照ください。
- ◆ 申込受付期間、プログラム内容等は変更される場合があります。
- ◆ 申込受付期間終了後でもお申込を受付できる場合がありますのでお問合せください。

4月上旬、新入生以外の学生の保証人様あてに学費等の納付書を送付いたします。納入期限は以下のとおりですので、遅れないように学費等を納めてください。

学費等の納入期限：前期分 4月30日

- 経済的な事情でこの期日までに納付できない場合、学生相談員(3年次後期以降は分野主任)に相談し、速やかに学費延納願を事務局学生課に提出して下さい(学費延納願の用紙は学生課窓口にあります)。
- 所定の期限までに納入しない場合は、講義・実習等の受講及び各種証明書の発行が停止され、定期試験等の受験資格を失うほか、進級・卒業にも影響し、場合によっては退学処分となるため、十分注意してください。

＜納入手続きのお願い＞

金融機関窓口で納入される場合は、本学から発送しました**納付書**をご利用下さいますようお願いいたします。

本学指定の金融機関をご利用いただきますと、振込手数料が無料となります。

なお、インターネットバンキングやATMをご利用される場合は、納入確認が困難となる事例が発生しておりますので、以下の点に十分ご注意くださいようお願いいたします。

振込人は本学納付書の太枠のお振込人欄に印字された**整理番号、学生氏名、金額**を必ず正しく入力して下さい。

保証人その他のご家族等、学生ご本人以外の名義で振り込まれた場合、本学にて納入確認ができない可能性があります。

私の薦める、私の一冊 Column

バイオサイエンス研究センター 講師 西川 哲
司馬遼太郎著 / 関ヶ原 ～上巻・中巻・下巻～
新潮文庫(1974)

関ヶ原の戦い(1600年)は壇ノ浦の戦い(1185年)、鳥羽伏見の戦い(1868年)と並んで日本の三大合戦(決戦)と呼ばれており、勝者の徳川家康はその後約270年続いた徳川政権の礎を築いた。

本書は、東軍と西軍の中心人物である徳川家康と石田三成に焦点を当て、二人を取り巻く諸侯の戦をめぐってのそれぞれの人間模様を描いている。

史実に基づかない挿話もあるが、各武将、各家の存亡がかくも偶然によって、また、発した一言によって左右されている運命の皮肉さ、非情さ、滑稽さがすべて描写されている。

この戦いの敗者の側である、薩摩藩、長州藩が後

の鳥羽伏見の戦いで徳川幕府を終焉させることとなるのも運命の皮肉であろうか。

「義」と「理」と「利」の間で諸将は如何に苦悩し、どう決断したのか、そしてその結果は如何であったか。学生の皆さんにはこれからの人生に思いを馳せる際の一助としては勿論のこと、教員、職員の方々にもぜひ一読をお薦めしたい一冊です。

※本書は入荷次第、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。



2017年度の学部入学試験が終了しました。志願者数および合格者数は表の通りです。

2017年度入学試験の志願者数は前年比68名(2.8%)増加し、2,521名となりました。大手予備校の調査によると今年度も理系学部の人気頭打ちが続き、私立薬系大学の志願者数は前年比99%と低調でしたが、本学は3年ぶりに志願者増加に転じることができました。

入試広報活動は、オープンキャンパス、進学説明会・相談会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問、学生の母校訪問等の活動により積極的に志願者確保に努めました。中でも、在学生による母校訪問に力を入れ、40名の学生による母校訪問を実施しました。また、オープンキャンパスは昨年度に引き続き多くの学生広報スタッフの協力を得て、非常に活気あるものとすることができました。今後も学生広報スタッフの募集を継続しますので、興味のある在学生

の皆さんは是非4月に開催される説明会に参加してください。

2018年度入学試験においても広報活動を通じて本学が育成する「ファーマシスト・サイエンティスト」の魅力を伝え、志願者獲得に努める所存です。皆様のご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	54名	54名
一般公募制推薦	80名	306名	81名
一般入学試験A方式	45名	892名	362名
一般入学試験B方式	180名	1,232名	469名
一般入学試験C方式	5名	37名	18名

(合格者数は3月14日現在)

2017年度大学院冬季募集及び二次募集の入学選考結果

2017年度薬学専攻博士課程(冬季募集)の入学選考を1月31日(火)に実施し、同日に合格発表を行いました。また、2017年度薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の入学選考を2月15日(水)に実施し、2月21日(火)に合格発表を行いました。

入学選考の結果は表のとおりです。

■ 2017年度薬学専攻博士課程(冬季募集)の合格者数等

	冬季募集	2017年度合計 (夏季募集含む)
志願者数	2名	12名
受験者数	2名	12名
合格者数	2名	12名

■ 2017年度薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の合格者数等

	一般	2017年度合計 (一次募集含む)
志願者数	1名	2名
受験者数	1名	2名
合格者数	0名	0名

■第58回日本感染症学会中日本地方会学術奨励賞（基礎分野）を受賞

微生物・感染制御学分野の林直樹助教が「第58回日本感染症学会中日本地方会学術奨励賞（基礎分野）」を受賞しました。2016年11月24日～11月26日に沖縄で開催された第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会において表彰式および受賞講演が行われました。

演 題：緑膿菌がⅢ型エフェクターExoSを上皮細胞内に注入するために必要なⅣ型線毛のメカニズム解析

演 者：林 直樹、後藤 直正



■第22回創剤フォーラム若手研究会においてMost Impressive Poster Awardを受賞

2016年11月26日に岡山で開催された第22回創剤フォーラム若手研究会において、薬剤学分野の博士後期課程2年田中晶子さんが、ポスター発表でMost Impressive Poster Awardを受賞しました。

演 題：Oxytocinの鼻腔内投与：直接移行経路を介した脳内送達の可能性

演 者：田中 晶子、新井 真理、井上 大輔¹、古林 呂之¹、草森 浩輔、勝見 英正、坂根 稔康²、山本 昌
(1:就実大学、2:神戸薬科大学)



■第39回分子生物学会年会において優秀ポスター賞を受賞

2016年11月30日～12月2日にパシフィコ横浜で開催された第39回分子生物学会年会において、細胞生物学分野の渡部 匡史助教が、優秀ポスター賞を受賞しました。

演 題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス ORF34はウイルス性転写前開始複合体形成を介した後期遺伝子発現に関与する

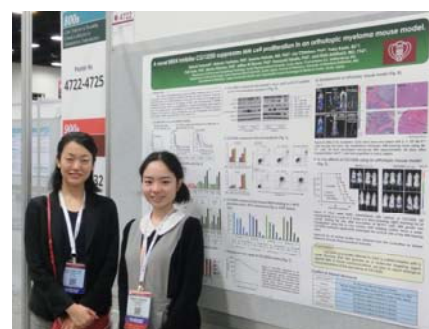
演 者：渡部 匡史、西村 麻佑、八木 将太、橋本 彩、藤室 雅弘

■the 58th American Society of Hematology Annual Meeting and ExpositionにおいてAbstract Achievement Awardを受賞

2016年12月3日～6日にSan Diegoで開催されたthe 58th American Society of Hematology Annual Meeting and Expositionにおいて、病態生理学分野の6年次生今吉菜月さんが、Abstract Achievement Awardを受賞しました。

演 題：A novel BRD4 inhibitor CG13250 (CA2) suppresses MM cell proliferation in an orthotopic myeloma mouse model

演 者：Natsuki Imayoshi、Makoto Yoshioka¹、Susumu Nakata、Jay Chauhan²、Yoko Kado、Yuki Toda、Steven Fletcher²、Jeffrey Strovell¹、Kazuyuki Takata、Eishi Ashihara
(1:ConverGene LLC, Gaithersburg, MD、
2:Department of Pharmaceutical Sciences,



University of Maryland School of Pharmacy, Baltimore, MD)

■「Genes and Environment」の2015年度最優秀論文賞を受賞

日本環境変異原学会の英文学術雑誌「Genes and Environment」の2015年度最優秀論文賞を公衆衛生学分野の大学院博士課程2015年度修了（現生薬学分野ポスト・ドクター）Souleymane Coulibalyさん他が受賞しました。

論文タイトル：Long-range transport of mutagens and other air pollutants from mainland East Asia to western Japan

著者：S. Coulibaly¹、H. Minami¹、M. Abe¹、T. Hasei¹、T. Oro²、
K. Funasaka³、D. Asakawa³、M. Watanabe⁴、N. Honda^{1,5}、
K. Wakabayashi^{1,6}、T. Watanabe¹

(1:Kyoto Pharmaceutical University、2:Tottori Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science、3:Osaka City Institute of Public Health and Environmental Sciences、4:Tottori University Faculty of Medicine、5:Sonoda Women's University、6:University of Shizuoka)



■「京都はぐくみ憲章」実践継続推進者として表彰

学生実習支援センターは、地域の小学生を対象とした「理科実験講座」を、『山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会』との協働で平成23年から毎年開催しています。この活動は、京都市が普及推進に取り組んでいる「京都はぐくみ憲章」の平成26年度実践推進者として表彰を受けましたが、活動を実践継続していることが評価され、この度、同憲章の制定10周年を記念した「実践継続推進者」として表彰されました。

2月5日に京都市北文化会館で行われた表彰式にはセンター所属教員が出席し、感謝状が贈呈されました。



表 彰 者：京都薬科大学 学生実習支援センター

表彰内容：京都はぐくみ憲章 平成28年度実践継続推進者表彰

表彰理由：京都はぐくみ憲章の理念推進を実践継続する団体として

News お知らせ

■ 2016年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式

2016年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士）授与式を、3月18日（土）午前10時から創立130周年記念館で執り行いました。

学部薬学科360名に卒業証書・学位記（学士）及び大学院博士課程5名、博士後期課程3名並びに課程によらない博士3名に学位記（博士）が後藤学長より授与されました。

式終了後、午後1時より、同創立130周年記念館で、京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

■ 新年度の始まりに寄せて

新年度の始まりにあたる4月、皆さんはどのような心持ちで迎えておられますか。

受験生活から解放されて本学に入学した新入生の方々は、新たな環境・人間関係の中で右往左往したり、高校生活との違いに驚いたり戸惑ったりしながら、大学生活に慣れようと奮闘しておられる頃でしょうか。また、在学生の方々もそれぞれなにがしかの変化がある中で新年度をスタートしておられるのではないのでしょうか。新入生・在学生の別なく、学生の皆さんにとって新年度は課された課題等を現実的にこなすことに忙しいと同時に、気忙しい時期でもあります。新生活の始まりは刺激に満ちており、さまざまな刺激を受けて期待や希望、高揚感を感じる一方で、不安や気負い、焦り、プレッシャーといった感情が喚起される場面も増えるかもしれません。新年度を迎えて生じた環境変化に適応しようと懸命になるあまりに余裕を失い、心身にストレスが蓄積しやすいのがこの時期の特徴のひとつでもあります。自分の限度を超えたストレスを抱えながら生活続けると五月病といわれるような不調状態に陥るリスクが高まることから、普段からセルフケアを心がけていただきたいと思います。

ここで気をつけていただきたいのですが、過度なストレスを抱えた生活に心身が慣れてしまい、ストレスへの抵抗力が一時的に上がることがあり、そのために無理ができてしまう時期があるという事実です。この時期に適切なストレス対処や休養をとらずに過ごしてしまうと、心身の疲弊が進みさまざまな不調が表面化する段階に移行してしまいます。その段になって漸く気づくということになってしまわないよう注意が必要です。また、存外自分自身の状態

は自覚しにくく、まだ頑張れると思いがちなためにストレス超過の状態が慢性化しやすい方も少なくありません。自分は大丈夫と思っている方もおられると思いますが、気を張って大学生を送り続ける中でほとんど疲れ切ってしまい、「自分が思い描いていたイメージと違う」「本当にこれでいいのだろうか」「ちゃんとやれていない気がする」等と、現実への不満感や不安、焦りを募らせて憂うつになったり、意欲が低下したりする心理状態に陥る可能性は誰しもにあることです。頑張らなきゃと気負いすぎてはいないか、疲労をため込みすぎてはいないかと顧みることも時には大切であることを心に留めておいていただきたいと思います。

今回は新年度にご注意いただきたいことを取り上げましたが、6年間という長い大学生活を通じ、さまざまな課題や問題に取り組む中で、折に触れて様々なストレスを抱えることが多々あると思います。学生生活を送る中でストレスを感じて辛くなったとき（たとえば、思うように物事が進まずに不安やプレッシャーが過度に高まったとき等）、「自分が弱いから」「我慢がないからだ」「頑張りが足りないからだ」と一方的に自身を責めるのではなく、これまでのやり方や有り様を見つめ直し、現状への対処が必要だと告げる警告のサインとして受けとめ、対策を考えてみましょう。

本学は学生の皆さんの相談先のひとつとして学生相談室を設置し、学生生活全般に関する相談に応じております。対処に悩まれたり、行き詰まりを感じたりした際には、ひとりで抱え込んでしまわずに学生相談室にご相談ください。

（臨床心理士 建部 有里／電話：075 - 595 - 4672）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で、問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つかったり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つかったりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご活用ください。

● 相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

● サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・ 開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・ 電話：075 - 595 - 4672
- ・ メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

硬式庭球部

〈関西薬学生連盟硬式庭球大会〉

男子団体・個人 優勝
女子団体 優勝
女子個人 優勝・3位

〈春季関西地区コメディカル硬式テニス大会〉

女子団体 3位

〈今後の予定〉

3月：春季関西地区コメディカル硬式テニス大会、
春合宿
8月：関西薬学生連盟硬式庭球大会

剣道部

私たち剣道部は、主に医歯薬、関西薬学生剣道大会や全国薬学生剣道大会、京滋大会、関西大会などに出場しています。

私たちは、薬学生の大会だけでなく、他大学の体育会剣道部が出場している関西大会で結果が残せるように日々稽古に励んでいます。

稽古内容に関しては、自分たちの試合内容を見直し、試行錯誤を繰り返して自分たちに足りなかった部分を中心に練習するようにしています。

これからも良い試合の結果を出せるように日々稽古に励んでいくとともに礼儀や協調性を大切にしていきたいです。

陸上部

2016年度 大会活動実績

第16回 全日本薬学生対抗陸上競技大会

女子 100m 1位

男子 4×100mR 2位 / 砲丸投げ 2位

第70回 関西薬学生対校陸上競技大会

女子 100m 2位 / 200m 2位 /

800m 1位・2位・3位 / 4×100mR 1位

女子総合の部 2位

男子 100m 3位 / 200m 3位 / 800m 2位・3位

1500m 3位 / 5000m 1位 / 4×100mR 2位

三段跳び 1位 / 男子総合の部 3位

男女総合の部 2位

2月19日に開催されました京都マラソンの競技役員をしました。

現在は、5月5日に控えている全日本薬学生対抗陸上競技大会に向けて、練習に励んでいます。

本年度は第24回関西医歯薬科学生対校陸上競技大会の主幹に当たっているの、しっかりと大会準備を進めていきたいです。

写真部

活動は月1〜2回で、京都を中心に関西圏へ撮影に行きます。

2016年度は、南禅寺、京都水族館、二条城など、他にも様々な場所を訪れました。

主な活動以外にも、秋には授業後に紅葉のライトアップ巡りをしたり、夏合宿をしたり、部員自ら積極的に活動しました。フィルムカメラを使って写真を撮りあい、モノクロフィルムを暗室で自分の手で現像するという、写真部でないとなかなか出来ない貴重な体験も出来ました。

また、京葉祭では、1年間撮影してきた写真の中で、自身が思う最高の1枚を展示しました。高校生と大学生活についてお話したり、近隣にお住まいの方々と交流が出来たり、アットホームな写真部ならではの京葉祭になりました。

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。マンドリン部はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラスの五種の楽器でオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力して練習し、また技術顧問の先生の指導を受けるなど意欲的に取り組んでいます。春合宿も終わり、現在は4月30日（日）に開催される全日本マンドリン連盟・京都ブロックの合同演奏会にむけての練習を行っています。マンドリンという楽器を知っている人も知らない人も、ぜひ聴きにきてください！部活中は真剣に演奏し、また日頃から学年の垣根を越えて仲がよいので、和気あいあいとした雰囲気の中活動しています。

ソフトテニス部

活動実績

関西薬学生ソフトテニス6校リーグ

男子団体 3位

女子団体 準優勝

個人戦 男子 森山・西澤ペア 3位

女子 森川・鳥本ペア 優勝

吉岡・太田ペア ベスト8

阿部・山下ペア ベスト8

今後の予定

4月 関西医歯薬ソフトテニス大会

5月 四薬戦

8月 関西薬学生ソフトテニス大会

11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

2017年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生、高校生、そのご父母および高等学校の先生方などに、是非ご案内下さいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。入試課にお問い合わせ下さい。

■2017年6月のオープンキャンパス

〈日時〉2017年6月4日（日）10：00～13：00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■2017年10月のオープンキャンパス

〈日時〉2017年10月29日（日）10：00～13：00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■2017年8月のオープンキャンパス

〈日時〉2017年8月5日（土）・8月6日（日）

午前の部 9：00～12：00

午後の部 13：30～16：30

〈主な内容〉

大学紹介・体験実習・在学生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

お問い合わせ

入試課

T E L : 075-595-4678

F A X : 075-583-2232

E-mail : kpu-koho@mb.kyoto-phu.ac.jp

＜2017年度 京薬会代議員総会の開催予定＞

2017年度京薬会代議員総会は5月27日（土）に開催します。当日は午前中に支部長会、そして午後に代議員総会を予定しています。代議員ならびに支部長の皆様はご出席ください。

＜駅伝大会とぜんざい会＞

京都薬科大学の伝統行事、京薬会協賛の「京都薬科大学駅伝大会」が冬とは思えない暖かな晴天のもと12月3日（土）に開催されました。

選手たちは今年初スターターを務める後藤学長の「いくでー」の掛け声と号砲とともに午後1時5分に中庭を一斉にスタートし、山科疎水へと駆け上がっていきました。約1時間後、応援の学生が大勢待つなか、選手たちが次々とゴールしました。

今年はコスプレ大賞も新設され、思い思いに趣向を凝らした学生も多くみられ、華やかな駅伝大会となりました。

今年の優勝チームは“かつちゃんボーイズ”（薬物動態学）、以下2位“負けたらスキンヘッドGF”（サッカー部）、3位“中央大学”（臨床薬学教育研究センター）の順でした。

全員ゴールした後、選手や応援の学生に恒例の京薬会提供のぜんざいが提供され、皆さんに喜んでいただけました。

陸上部の皆さんにはこの伝統行事を続けていくために、毎年交通整理や安全確保に尽力していただい

ています。近年参加チームが少なくさびしい大会になっていましたが、陸上部の皆さんの工夫と働きかけで昨年より参加チームが増加していました。

京薬会では、以前のような盛大な駅伝大会を復活させるため陸上競技部とともにこの伝統ある京都薬科大学駅伝大会を盛り上げていきたいと考えています。

＜ホームカミングデー開催予定＞

本年度のホームカミングデーは第7回となりますが、例年通り京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせ、開催します。当日は講演会ならびに歓迎パーティーを予定しています。参加者は回を追うごとに増加し、盛大になっていますが、本年は更に充実したホームカミングデーとしたいと考え、企画を練っていますので、一度新しく生まれ変わった母校を訪問し、恩師や卒業生や在学生と交流してみませんか。

この会にあわせてミニ同窓会を開催、同期の仲間で誘い合わせて参加といった光景も増えてきており、このような形でもこの会を利用していただけたいと思います。

参加は無料です。さらに、学生との交流に使用できる1,000円分の模擬店チケットも差し上げますので、お誘いあわせのうえ来学ください。

詳しい日程、内容についてはホームページならびに「京薬会誌」8月号でお知らせします。

人 事

採 用

医療薬科学系臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一
基礎科学系一般教育分野 教授 佐藤 毅
(以上 任期：2017. 4. 1～2027. 3. 31)

バイオサイエンス研究センター 准教授 斉藤美知子
薬用植物園 助手 前田 晋作
(以上 任期：2017. 4. 1～2022. 3. 31)

(教育研究支援教員)

創薬科学系生薬学分野 助教 中嶋 聡一
(任期：2017. 4. 1～2018. 3. 31)

(特命教員)

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 特命教授 五十嵐恵美子
特命教授 大崎 祥子
特命教授 吉田 久博
(以上 2017. 4. 1付)

事務局情報管理推進室 主事 北村 聡洋
(2017. 4. 1付)

昇 任

創薬科学系薬品製造学分野 准教授 小島 直人
創薬科学系薬品化学分野 准教授 小林 数也
(以上 2017. 4. 1付)

再 任

基礎科学系物理学分野 教授 有本 収
創薬科学系薬品製造学分野 准教授 小島 直人
基礎科学系健康科学分野 講師 沼尾 成晴
病態薬科学系臨床薬理学分野 助教 鳥羽 裕恵
分析薬科学系薬品分析学分野 助手 小西 敦子
薬学教育系教育研究総合センター
学生実習支援センター 助手 大谷 有佳
(以上 任期：2017. 4. 1～2022. 3. 31)

退 職

基礎科学系薬学英语 教授 FOONG FOO WAH
医療薬科学系薬剤学 助教 草森 浩輔
生命薬科学系生化学 助教 久家 貴寿
薬学教育系教育研究総合センター
学生実習支援センター 助教 小関 稔
(以上 2017. 3. 31付)

任期満了

薬用植物園御陵園 助手 前田 晋作
(特命教員)
薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 四方 利和
特命教授 大槻 雅子
(以上 2017. 3. 31付)

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2016年12月～2017年2月にご寄附をお寄せいただいた方々

< 卒業生・同期会等 (卒業年次順) >

加納 亜子(昭40)	渡辺 温(昭43)	田中 和重(昭60)	張 賢二(平01)
内田千恵子(昭43)	川崎 真子(昭49)	東 富雄(昭63)	大谷 智子(平07)
水口 葉子(昭43)	中嶋 淳子(昭55)	大谷 俊秀(平01)	

< 京薬四二会卒業50周年記念募金 (昭和42年卒業生) (五十音順) >

井上 武久	北澤 節子	中川 哲	平山 之朗	山下 紘一
梅田 滋子	齊藤 滋	中嶋 弘	法貴 和子	吉田 弘嗣
岡田 幸子	竹重サチコ	西島 裕	増田美和子	吉田 恭啓
北 泰行	寺嶋 弘子	羽室嘉太郎	森澤 暁子	

< 法人役員・評議員・職員等 (五十音順) >

上西 潤一(元教授) 後藤 直正(学 長) 高野 江里(課 長) 土田 花美(係 長) 矢野 義孝(教 授)
北出 達也(教 授) 佐原 和美(係 長) 田中 福子(一 般) 森田 和子(理 事)

(2017年2月28日現在)



KPUNews No. 189 2017年4月発行／編集：KPUNews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。